

Jpn J Nurs Sci. 2020;17(2):e12313.

# 内視鏡を用いた嚥下観察の 看護師向け教育プログラムの安全性と有効性

Safety and the effectiveness of a new education program for nurses to assess swallowing function using fiberoptic endoscopic evaluation of swallowing (FEES)

吉田美香子<sup>1</sup> 加賀谷斎<sup>2</sup> 鎌倉やよい<sup>3</sup> 三浦由佳<sup>4</sup>  
才藤栄一<sup>2</sup> 大川洋平<sup>5</sup> 真田弘美<sup>5,6</sup>

- 1 東北大学大学院医学系研究科ウィメンズヘルス・周産期看護学
- 2 藤田医科大学医学部リハビリテーション医学I講座
- 3 日本赤十字豊田看護大学
- 4 東京大学大学院医学系研究科イメージング看護学
- 5 東京大学大学院医学系研究科 グローバルナーシングリサーチセンター
- 6 東京大学大学院医学系研究科 老年看護学／創傷看護学

本研究は、日本医療研究開発機構 長寿科学研究開発事業「アドバンスな看護技術を導入した在宅・介護施設療養者の摂食嚥下・排便を支える多職種連携システムの構築」(代表:真田弘美)の一部として実施した

# 摂食嚥下障害とは？

- **摂食**（口の中に食べ物を取り込む、かみ砕く）と、**嚥下**（噛んだ食べ物を飲み込む）の機能は、歳をとるとともに低下します。
- 摂食嚥下機能が障害されると、食べ物が気管に入る（**誤嚥**）、嚥下後に、食べ物の一部が喉のあたりに残る（**咽頭残留**）ことがあります、時に誤嚥性肺炎を引き起こします。



誤嚥・咽頭残留



誤嚥性肺炎

# 看護師による嚥下内視鏡検査が、なぜ必要？

## • 嚥下内視鏡検査

- 管の先にカメラがついた内視鏡を鼻から入れて、誤嚥・咽頭残留の観察することで、摂食嚥下機能を評価する検査です。
- 医師・歯科医師だけの実施では、必要な患者さん全てを検査できない（つまり、正確な摂食嚥下評価ができないまま、食事のケアをしている状況がある）という問題があります。



**摂食嚥下ケアの主要な提供者である看護師が、  
嚥下内視鏡検査ができれば、  
よりよいケアに繋がるのでは？**

# 研究の概要

---

- 目的

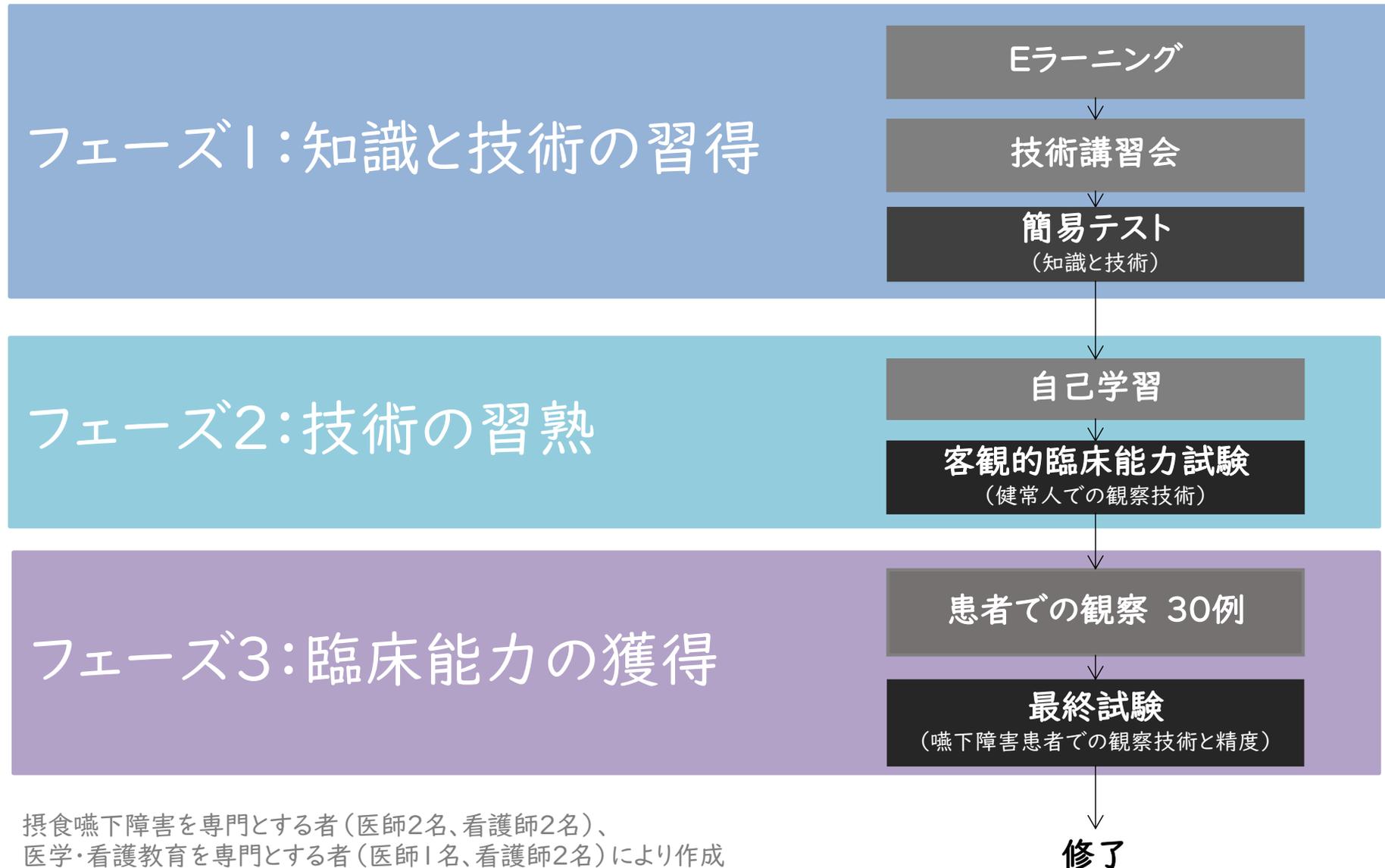
- 内視鏡を用いた嚥下観察の 看護師向け教育プログラムを開発し、その安全性と有効性を確認する

- 対象

- 摂食・嚥下障害看護認定看護師 3名

※ 嚥下内視鏡検査の実施経験、教育受講経験がある者は除外

# 教育プログラムの概要



# 受講者3名の概要

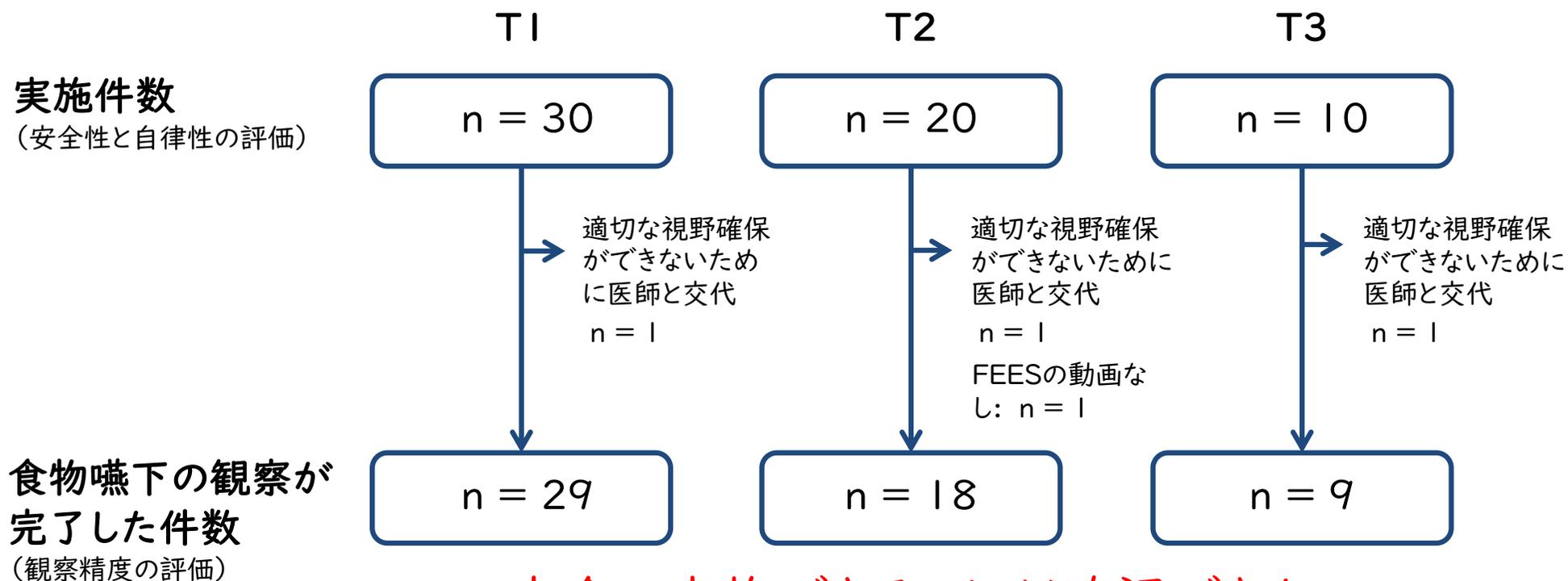
	T1	T2	T3
<b>A. 基本属性</b>			
年齢	40s	30s	40s
職場	病院	病院	病院
嚥下内視鏡検査の立会い経験	あり	あり	あり
<b>B. 教育プログラム</b>			
フェーズ1:技術講習会後のテスト			
記述テスト (0-100)	100	100	100
内視鏡検査の実技テスト (0-100)	100	100	100
フェーズ2:客観的臨床能力試験(1-6)	6	6	6

T:受講者

# 安全性の評価

- 評価指標

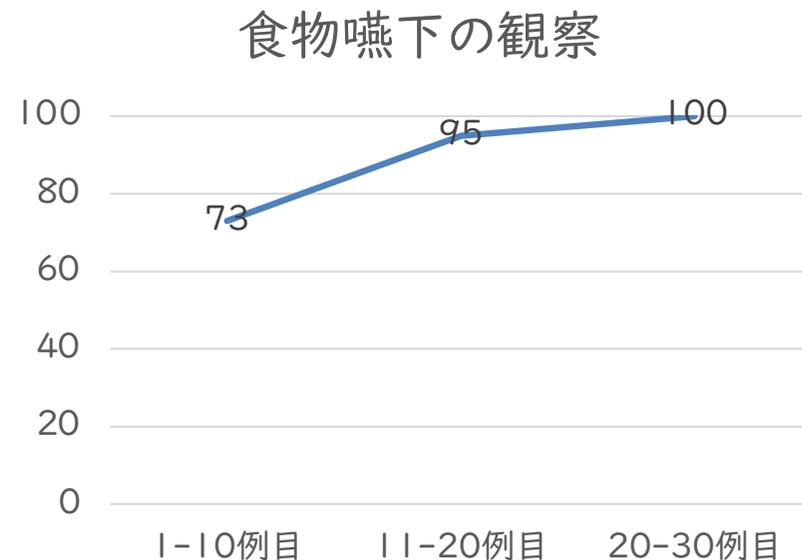
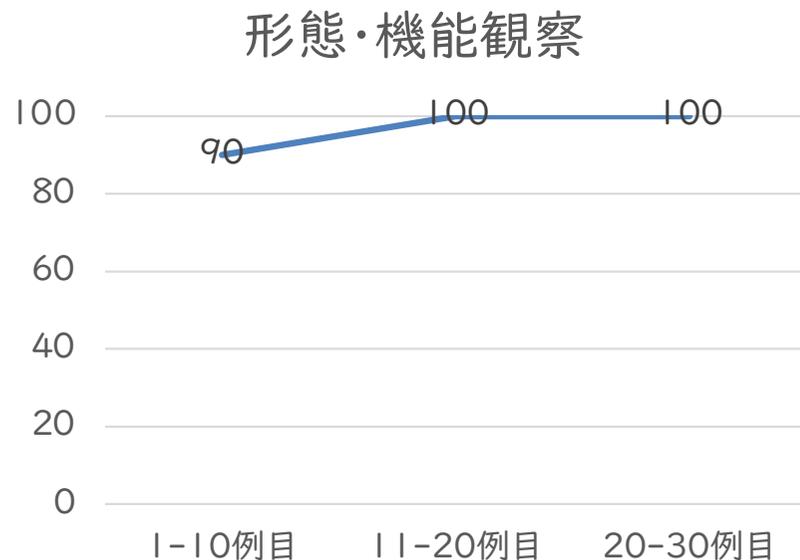
- 指導者による指導の下、摂食嚥下障害患者に対して行った嚥下内視鏡検査で食物嚥下の観察までできた件数



安全に実施できることが確認できた

# 有効性の評価①: 自律性

- 評価指標
  - 指導者からの助言なく、実施できた割合

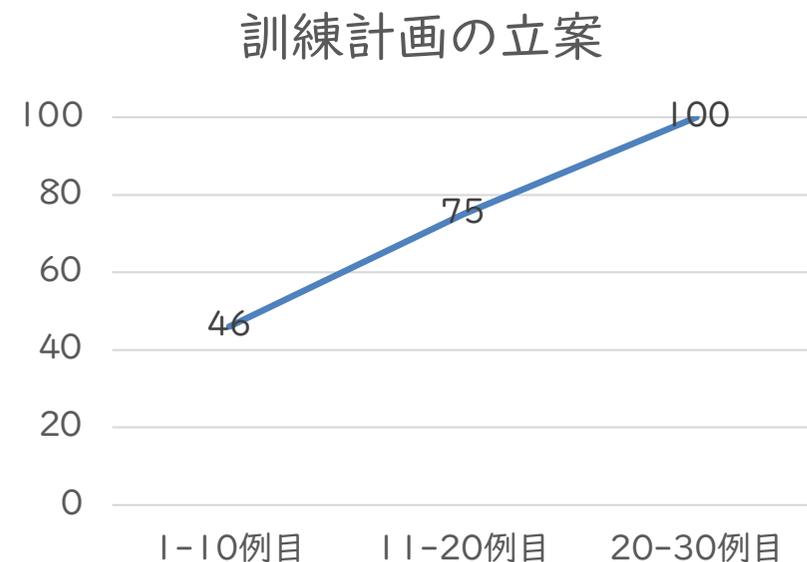
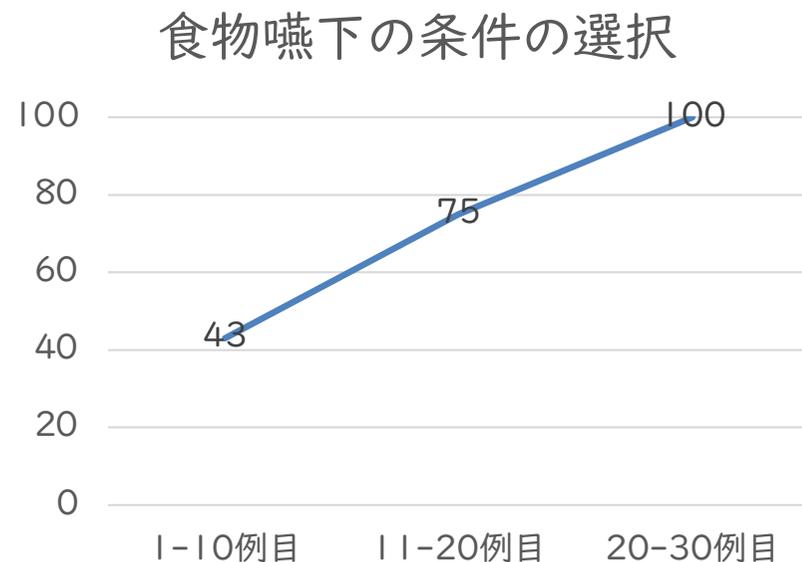


訓練とともに、嚥下に関連する器官の形態・機能、  
食物嚥下の様子を観察できるようになった

# 有効性の評価①：自律性

- 評価指標

- 指導者からの助言なく、実施できた割合



訓練とともに、検査中、次の食物嚥下の条件の選択ができ、  
検査後は、結果から摂食嚥下訓練の計画ができるようになる

## 有効性の評価②：食物嚥下観察の正解率(%)

- 評価指標
  - 指導者と訓練者の観察結果の一致度

	誤嚥	咽頭残留 (梨状窩)	咽頭残留 (喉頭蓋谷)
1-10 症例	92.8	94.8	94.8
11-20 症例	100	100	100
21-30 症例	100	100	100

食物嚥下時の誤嚥や咽頭残留は、正しく観察できる

## まとめ

---

- 内視鏡を用いた嚥下観察の看護師向け教育プログラムを開発した

嚥下内視鏡検査の立ち会い経験がある看護師では、教育の受講により、

- 内視鏡を用いた嚥下観察が安全に実施できる
  - 30例の観察の中で、自律的に実施できるようになる
  - 食物嚥下時の誤嚥や咽頭残留は、正しく観察できることが明らかとなった。
-